

科目名	現代社会論<各論> 「サウンドスケープ：音との対話 自分との対話」		担当教員	よしなか あつし		
			担当形態	単独		
テキスト	「音さがしの本」春秋社	単位数 授業形態	4単位 (総論とあわせて)	演習	開講時期	通年

講義概要

■到達目標

- ・「聴く」という人間の行為についての理解を深め、自分なりの意見をもてる。
- ・音やその表現からDiversity (多様性) を捉え、自分なりの意見をもてる。
- ・自分や社会にとっての音 (音楽) のあり方を考え、自分なりの意見をもてる。

■授業の概要

音とは何でしょうか？ 人間の生活、あるいは生きるということにおいては、音との関係を無視することはできません。私たちが行う音とのかかわり方としては、1. 音を発する。2. 音を聴取する。という2種類があげられますが、私たちの日常生活における音との関係はこのようにはっきり分けられるようなものなのでしょうか。

私たちにとって音を聴くということは、いったいどのような行為なのでしょう。もちろん視覚的に音を捉えることはできません。しかし、音は私たちに何かしらの感覚を残してくれます。また音は帰属性が高く、音源 (音の発生源) を特定されやすい性質があるのです。「これは誰が出した音なのか？」と。もしその音源が特定できなくとも、音そのものが音源 (発信者) の性格や機能、あるいは職種までも表現してみたり、また音を聴取する者 (受信者) にとっては、その音源と関わるための概念やルールまでも提供するかのようなのです。

この授業は、音に対する私たちの挑戦です。いったい私たちは音とどのように付き合っているのか？ その音との関係を振り返りながら音というものについて改めて考えると同時に、現代という音環境で生活する私たちについて見つけ直すための「音の実験室」です。音をあつめたり、音を作ったり、音に訊いたりしましょう。そして自分自身の感覚によって音を捉えながら、生きることに對する肯定感を高めていきましょう。

■授業計画

第1回	オリエンテーション 3分間スピーチ	第12回	音の視覚化：デザイン
第2回	エンカウンターゲーム	第13回	プレゼンテーションおよびディスカッション
第3回	音と文化 音楽と文化①	第14回	音から見る自分史①：作成の説明 (内容 項目 体裁など)
第4回	音の実験室①	第15回	音から見る自分史②：項目別ディスカッション
第5回	ブラインドウォーク	第16回	音と文化 音楽と文化②
第6回	リスニングウォーク①：キャンパスの音	第17回	クリスマス文化と音 (音楽) ①
第7回	マッピングおよびディスカッション	第18回	クリスマス文化と音 (音楽) ②
第8回	音の実験室②	第19回	クリスマス文化と音 (音楽) ③
第9回	リスニングウォーク②：静けさとは	第20回	クリスマス文化と音 (音楽) ④
第10回	プレゼンテーションおよびディスカッション	第21回	まとめ
第11回	リスニングウォーク③：自分が出す音		

■準備学習

1. 授業のふりかえりとして、毎授業後レポートをEvernoteに提出すること。
2. 毎授業終了時、次回のテーマについての説明を行う。それについてのイメージや所感などをレポートとしてEvernoteに提出すること。
3. 1および2をもとに、インターネットメディアを通じて事前に授業担当者とディスカッション (やり取り) を行うことがある。

■評価方法

- ・授業時間内における意義ある雑然の構成 — 30%
- ・準備学習の取り組みおよび課題レポート等の提出 — 40%
- ・当事者意識を持ったクリエイティブな発想 — 30%

参考文献	授業時間内に指示。	特記事項	受講条件 ・何事にも興味を持って取り組める姿勢を持っていること。 ・自分自身の生活やライフスタイルに意識を高く持っていること。 ・基礎的な音楽理解とコンピューター等の知識があること。
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修	幼	
		保	教養科目